

北海道警察現場鑑識実施要綱の制定について

平成23年3月14日

道本鑑第536号

／警察本部各部、所属の長／警察学校長／各方面本部長／各警察署長／あて
道警察における現場鑑識の実施については、これまで現場鑑識実施要綱の全部改正について（昭53．3．14道本例規（鑑）第8号。以下「旧通達」という。）により運用してきたところであるが、この度、その内容について所要の見直しを行い、新たに別添のとおり「現場鑑識実施要綱」を定めたので、所属職員に周知徹底の上、効果的な運用に努められたい。

なお、旧通達は廃止する。

記

第1 改正の趣旨

旧通達は、制定から相当の期間を経過し、その間に微物鑑識、DNA型鑑定等の科学的かつ合理的な捜査が導入されるとともに、組織機構の改正、関係規程の改廃等が行われたことから、これを整備し、適正かつ効果的な現場鑑識活動を行うため、所要の改正を行ったものである。

第2 改正の要点

- 1 関係規程の改廃に伴い、その名称等について所要の整備を行った。
- 2 警察本部及び方面本部（以下「本部」という。）並びに警察署にあらかじめ編成することとしていた現場鑑識班については、事件及び事故（以下「事件等」という。）の規模、内容、現場の状況等に応じて、現場鑑識責任者を指定した上で、必要な人員をもって編成することとした。
- 3 現場鑑識活動は、事件等の種別等に応じて柔軟かつ的確に対応する必要があるため、これまで事件等ごとに定型的に定めていた、現場鑑識の実施要領を削除した。

別添

北海道警察現場鑑識実施要綱

第1 趣旨

この要綱は、犯罪捜査規範（昭和32年国家公安委員会規則第2号。以下「捜査規範」という。）に定めるもののほか、現場鑑識の実施に関し、必要な事項を定めるものとする。

第2 基本方針

現場鑑識の実施に当たっては、捜査規範及びこの要綱の定めるところに従い、迅速な現場臨場、徹底した現場観察及び合理的判断により、各種資料の発見及び採取に努めるとともに、これを積極的に活用し、科学捜査の推進に資するものとする。

第3 現場鑑識体制の確立

1 本部の事件等発生時の措置

警察本部の鑑識課長及び方面本部の鑑識課長（以下「鑑識課長等」という。）は、おおむね次に掲げる事件等若しくはこれらに発展するおそれのある事件等（以下「重要事件等」という。）の発生を認知したとき、又は重要事件等の発生地を管轄する警

警察署長（以下「所轄警察署長」という。）から事件等発生 of 通報を受けたときは、重要事件等の規模、内容、現場の状況等に応じ、当該所属から必要な人員を事件等の現場に派遣するものとする。

ア 北海道警察捜査指揮規程（平成4年警察本部訓令第15号）に規定する警察本部長指揮事件又は方面本部長指揮事件

イ 死亡ひき逃げ事件等の重要又は特異な交通事故

ウ その他重要又は特異な事件等

2 本部の現場鑑識体制の確立

鑑識課長等の措置等

鑑識課長等は、現場鑑識活動を適正かつ効果的に実施するため、次のとおり所属職員を派遣するとともに、所轄警察署長の指揮に積極的に協力し、又は助言するものとする。

ア 鑑識課長等は、重要事件等の発生を認知したときは、機動鑑識班又は機動鑑識係、現場・指導係、現場係その他の係から必要な要員（以下「本部鑑識課員」という。）を派遣するものとする。

イ 鑑識課長等は、重要事件等以外の事件等の発生を認知した際においても本部鑑識課員の派遣による現場鑑識活動が必要と認めたときは、必要な要員を派遣するものとする。

鑑識課長等と事件主管課長との連携

ア 鑑識課長等は、重要事件等の発生を認知後の捜査体制に関し、本部の事件主管課長（以下「事件主管課長」という。）と緊密な連携を保ち、現場鑑識活動を迅速かつ効果的に実施し、採取した証拠資料等の情報その他現場鑑識活動により入手した情報を、速やかに初動捜査活動等に活用することができるよう配意しなければならない。

イ 鑑識課長等は、重要事件等以外の事件等に関し、本部鑑識課員を派遣するときは、事件等の内容、必要な現場鑑識活動等について事件主管課長と協議の上、派遣に必要な要員を決定するものとする。

警察本部鑑識課員の札幌方面以外の方面への派遣

ア 方面本部の鑑識課長は、当該方面本部管内で発生した重要事件等の規模、内容、現場の状況等により、必要があると認めるときは、警察本部鑑識課員の派遣を要請することができる。この場合において、派遣要請は、当該方面本部長から刑事部長に対して行うものとする。ただし、重要事件等の内容により急を要する場合はこの限りでない。

イ 派遣された警察本部鑑識課員は、適正かつ効果的な現場鑑識活動を実施するため、所轄警察署長の指揮下に入り、積極的に協力又は助言するものとする。

3 警察署の現場鑑識体制の確立

重要事件等発生時の措置

ア 所轄警察署長は、事件等の種別に応じ、鑑識課長等に（札幌方面以外の方面の所轄警察署長にあっては、当該方面本部の鑑識課長に）事件等の発生を通報するとともに、自署の鑑識係並びに北海道警察鑑識代行員等運用要綱の制定について（平

18. 2. 28道本鑑第334号)に規定する鑑識特別代行員、鑑識代行員及び鑑識補助員(以下「鑑識代行員等」という。)による現場鑑識班を編成するものとする。

イ 所轄警察署長は、本部鑑識課員又は交通鑑識係員の派遣を受けたときは、自署の現場鑑識班に編入するものとする。

現場鑑識責任者の指定

所轄警察署長は、現場鑑識活動を実施するに当たり、その事件等の規模、内容等を検討し、次のとおり現場鑑識責任者を指定するものとする。

ア) 重要事件等の発生時は、原則として、警部の階級にある統括官又は課長を現場鑑識責任者に指定するものとする。この場合において、本部鑑識課員の派遣を受けたときは、機動鑑識班の班長等警部の階級にある者を現場鑑識責任者に指定することができる。

(イ) 重要事件等以外の事件等の発生時は、鑑識係長その他警察署長の指名した者をもって現場鑑識責任者に指定するものとする。

現場鑑識責任者の任務

ア 現場鑑識責任者は、捜査主任官(捜査規範第20条に規定する捜査主任官をいう。以下同じ。)の指示の下、現場鑑識班を指揮して綿密な現場鑑識活動を行い、採取した証拠資料等の情報その他現場鑑識活動により入手した情報を捜査主任官に報告し、速やかに初動捜査活動等に活用するよう配意しなければならない。

イ 現場鑑識責任者は、現場鑑識班が現場の検証を行う者(以下「検証班」という。)と現場鑑識活動を実施する場合は、捜査主任官の指揮の下、検証班と緊密な連携を保ち、採取した資料を速やかに初動捜査活動等に活用するよう配意しなければならない。

重要事件等以外の事件等発生時の措置

警察署長は、自署管内において発生した重要事件等以外の事件等の規模、内容、現場の状況等により、必要があると認めるときは、現場鑑識班を編成するなどし、現場鑑識活動を行うものとする。この場合において、本部鑑識課員等の応援が必要であると認めたときは、警察署を管轄する警察本部又は方面本部の鑑識課長等に派遣を要請することができる。

4 鑑識専従指定捜査員の派遣及び警察署のブロック運用に係る警察署間の協力関係の確立

鑑識課長等及び警察署長は、指定捜査員の派遣による捜査体制の確立について(平22. 8. 13道本刑第1955号)及び警察署のブロック運用について(平22. 6. 24道本務第2395号)により、事件等発生時の現場鑑識活動においても警察署相互間の支援活動を推進するものとする。

第4 資器材の整備及び保管

鑑識課長等及び警察署長は、自所属に配備されている鑑識資機材等の数量、性能等を常に点検し、いつでも使用できる状態に整備しておかなければならない。

第5 基礎資料の収集及び整備

鑑識課長等は、現場資料の有効活用を図るため、事件等の種別に応じて指紋、履き物底、DNA型資料その他の基礎資料の収集及び整備に努めなければならない。

第6 現場保存における留意事項

- 1 現場保存に当たっては、捜査規範の規定を厳守し、資料の滅失、散逸等の防止について細心の注意を払わなければならない。
- 2 現場保存は、現場に先着した警察官がこれに当たるものとし、当該者が2人以上のときは上位の階級にある者又は先任者を現場保存責任者とする。この場合において、捜査主任官が現場に到着し、現場保存責任者を別に指定したときは、その者に対し必要な事項を確実に引き継ぐものとする。
- 3 現場保存責任者は、現場保存に従事する者（次事項において「現場保存従事者」という。）を指揮し、現場保存範囲の設定、現場立入り規制、現場資料の保全等の措置を執るとともに、取扱事項を詳細に記録し、捜査主任官に報告しなければならない。
- 4 警察署長は、重要事件等が発生した場合は、現場保存従事者のほか現場警戒責任者及び現場警戒補助者を指定し、立入規制区域における警戒に当たらせるものとする。

第7 現場鑑識活動実施上の留意事項

1 基本的な心構え

現場鑑識活動は、現場の状況を的確に把握し、現場に存在するあらゆる資料を発見及び採取することで、証拠を保全し、又は犯人を発見し、若しくは犯罪事実を証明するものであることから、予断を排除し、及び先入観にとらわれることなく、綿密かつ徹底した現場観察、科学的かつ合理的な判断に基づき確実に実施しなければならない。

2 留意事項

現場鑑識活動の範囲

現場鑑識活動を実施する範囲は、単に犯行現場、事故現場等に限定することなく、広範囲に選定すること。

現場鑑識の統制及び順序

ア 現場鑑識活動を2人以上で実施するときは、現場鑑識責任者が指揮及び統制し、検証班と連携するとともに鑑識活動に従事する者（以下「鑑識活動従事者」という。）に具体的な任務を付与すること。

イ 現場鑑識活動は原則として外周から中心部に向かって実施すること。

服装等

鑑識活動従事者は、別に定める鑑識活動服又は現場鑑識活動に適した被服を着用し、帽子、ヘアネット、マスク、手袋、履物カバー等を用いるとともに、ズボンの裾を靴下内に折り込み、捜査員自らの付着物、毛髪、体毛等の落下防止に配慮すること。

また、立会人、事件関係者等で現場に立ち入る者についても同様とする。

鑑識資器材の活用

現場鑑識活動の実施に当たっては、鑑識資器材を有効に活用し、鑑識活動の効率化を図ること。

手口観察

現場鑑識活動に当たっては、犯行の方法、物色状況、共犯の有無、逃走口等について詳細に観察し、犯行の手口を明らかにすること。

現場変更の確認及び矛盾の発見

現場鑑識活動の実施に当たっては、現場の変更の有無を確認し、変更があったときは、変更の原因及び理由並びに変更の時刻、変更した者を明らかにするとともに、現場の矛盾を発見し、疑問点を究明すること。

立証措置

現場の状況及び現場資料は、立会人に示して確認させるとともに、写真撮影、記録化等の方法による立証措置を確実に行ってから採取すること。

現場の復元

現場鑑識活動中及び活動が終了したときには、鑑識活動によって汚染された箇所の清掃を確実に実施し、常に被害者の立場に立った活動に配慮すること。

現場鑑識実施報告書の作成

現場鑑識活動を実施したときは、現場鑑識実施報告書（別記様式）を作成し、事件の記録に添付し、鑑識活動の状況を明らかにすること。

第8 現場資料採取上の留意事項

- 1 鑑識活動従事者は、現場資料を発見したときは、現場鑑識責任者に報告し、確認を得た上で処理すること。
- 2 鑑識活動従事者は、現場資料を採取する前に必ず立会人に対し、その位置、形状、個数等を確認させること。
- 3 立会人には、事件の容疑がなく、かつ後日公判廷において証言する能力を有する者を選定すること。この場合において、事件の内容、規模等から判断し、必要があると認めたときは、複数の立会人を選定し、それぞれ分かれて立会いさせること。
- 4 立会人に確認させた現場資料については、採取前に写真撮影をすること。この場合において、画面の適当な位置に立会人本人又は立会人が自署した立会人札を入れて撮影し、証拠としての客観的な証明力を確保すること。
- 5 資料の採取に当たっては、採取場所、時期等を検討し、最も適切な方法により採取すること。
- 6 微物資料の採取に当たっては、微物の特性を理解し、資料の価値が損なうことのないよう配慮すること。
- 7 現場資料は、清潔なビニール袋、ポリエチレン容器、ガラス容器等に収納するとともに、標示札又は容器に資料の名称、番号、採取年月日、場所、立会人等を記載し、採取の状況を明らかにすること。この場合において、遺留されたDNA資料については、滅菌された器材を使用し、他の微物が混同することのないよう細心の注意を払うこと。
- 8 採取した現場資料の取扱いについては、その都度、立会人を付して写真撮影するなど資料の同一性を明らかにし、証拠としての価値の保全に配慮すること。

第9 採取資料の迅速な活用

- 1 採取資料は捜査の各段階において有効に活用しなければならないことから、速やかに本部鑑識課及び科学捜査研究所又は方面本部鑑識課科学捜査研究室に鑑定、検査、対照等の依頼又は嘱託をしなければならない。
- 2 本部鑑識課員及び科学捜査研究所又は方面本部鑑識課科学捜査研究室の職員は、前事項の依頼又は嘱託を受けたときは、速やかにこれを処理するものとし、結果につい

ては、必要により書面の発送に先立ち、電話で回答するなど捜査活動に迅速に反映するように配慮しなければならない。

第10 警察犬の活用

1 出動要請

警察署長及び事件主管課長は、現場の状況から警察犬の使用を必要と認めるときは、北海道警察犬運用要領の制定について（平21．10．30道本鑑第2392号）の定めるところにより、速やかに本部鑑識課長に対し、警察犬の出動を要請するものとする。

2 活動上の配意事項

警察犬による搜索は、事件の内容、規模及び現場の状況に応じ、広範囲に反復して実施すること。

第11 似顔絵の活用

1 似顔絵の作成

警察署長及び鑑識課長等は、似顔絵の作成が必要と認められる事件を認知したときは、北海道警察似顔絵技能者等運用要綱の制定について（平22．3．1道本鑑第384号）に定める、似顔絵技能者又は似顔絵受講者を出動させ、似顔絵の作成に当たらせるものとする。

2 捜査への活用

警察署長及び事件主管課長は、作成された似顔絵を捜査に活用するときは、関係者の目撃時の心理状態、事件発生時の現場の状況等を考慮した上で早期に活用すること。

第12 鑑識教養の実施

1 鑑識課長等及び警察署長は、鑑識係員、鑑識代行員等その他の捜査員に対し鑑識活動に係る教養を実施し、鑑識技術の向上に努めなければならない。

2 鑑識教養の実施に当たっては、鑑識執務資料等を利用した鑑識資器材の使用方法、現場保存及び写真撮影要領、指紋、足こん跡及び微物資料の採取方法、法医学、理化学について実務的な教養を実施するものとする。

別記様式省略